

7章 あとがき

東方に太平洋、西方に東シナ海を望み、南南西方向に南西諸島を抱え、日本第三位の海岸線延長を持つ鹿児島県においては、海から到来する漂流物に関わる災害が度々発生する。漂流および漂着物災害は、海の中に物理的な国境や都道府県境が設定されていないために、物が漂流し始めると黒潮や季節風および波浪の影響を受け、大規模な輸送現象（移流拡散）として、海に面する自治体や海で仕事をする人々に多大な影響を及ぼす場合がある。従って、被災状況の確認、自然現象としての物理機構の解明、予測技術の改善と予報の確立、漂着物の組成や安全性の確認を行うことが重要である。また、輸送されている物質に応じて、回収後の利用の検討も必要であろう。鹿児島大学としては、地域貢献および学術的貢献の観点から、今後も発生する可能性の高い海域での漂流・漂着物の問題に対するワーキンググループを岩井社会貢献担当理事の主導で立ち上げ一定の成果を得たので、本報告書としてまとめ公開することにした。なお、それぞれの記載内容に関する質問等は、担当した個別の研究者にて担当する。

謝辞

本報告書にまとめられた研究は、鹿児島大学経営戦略経費の支援のもとで各部局の垣根を越え鹿児島大学の研究者が一丸となり実施された。研究費の支援に対し、深甚の謝意を表させていただくものである。

令和3年度経営戦略経費(特別調整経費)

| | |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 部局 | 08 水産学部 |
| 責任者(部局長等) | 西 隆一郎教授(岩井理事) |
| 種別 | 01 環境整備 |
| 要求名称(40字以内) | 軽石漂流・漂着調査費用 |
| 要求概要(200字以内) | 小笠原諸島の福德丘ノ場の噴火により発生した大量の軽石が鹿児島県の南西諸島海域に漂流・漂着しており、島嶼圏の生活や海洋環境に悪影響を及ぼしている。地元の大学としての即時対応として、漂流・漂着状況の調査を行うとともに、軽石の洗浄方法の検討や付着成分の分析による安全性の確認等を行い、次のステップである農業資材等としての有効利用のための予備データを取得する。本計画に必要な人件費や運営費を要求する。 |
| 必要理由(200字以内) | 離島沿岸や港湾における軽石の漂着状況を俯瞰的・客観的に把握して今後の予測に活かし、風評被害防止や地域資源利用の観点から成分分析を実施する。鹿児島県や国には、有効利用を含め、目下のところ調査計画が無いため、漂着の影響が大きい沖永良部島や与論島等は、鹿児島大学による調査研究を求めている。いずれ国などから関連予算が示される事も想定されるが、本学としては、社会貢献を目指した基礎研究を始めておく必要がある。 |
| 要求額(円)(※見積書を添付) | 2,000,000 |
| 備考(200字以内) | ○人件費(漂着軽石採取・分析および空間情報解析の補助ならびに事務局作業補助の雇用) 440,000 ○運営費(調査旅費、成分分析費、調査用ドローンのメンテナンス費用など) 1,430,000 ○会議・印刷費(報告会会場使用料や報告書作成) 130,000 |
| 部局優先順位 | |

軽石 WG 代表； 岩井理事

メンバー；

加古真一郎先生（海洋土木工学）

松井 智彰先生（岩石鉱物学）

富安 卓滋先生（環境解析・化学）

河合 溪先生（軽石の採取）

事務局； 西 隆一郎（海象観測・渚保全）

○人件費（漂着軽石採取・分析および空間情報解析の補助ならびに事務局作業補助の雇用）

○運営費（調査旅費、成分分析費、調査用ドローンのメンテナンス費用など）

○会議・印刷費（報告会会場使用料や報告書作成）

内訳；

| | | |
|--------|---------------------|-----------|
| 加古准教授： | 漂流予報・漂流数値シミュレーション | 小計 42 万円 |
| 松井教授： | 岩石（鉱物）分析実験補助アルバイト代 | 小計 42 万円 |
| 富安教授： | 付着成分分析用科学実験補助アルバイト代 | 小計 42 万円 |
| 河合教授： | 奄美分室軽石調査用旅費 | 小計 38 万円 |
| 西： | 事務局 + 軽石漂着調査 | 小計 36 万円 |
| | | 合計 200 万円 |